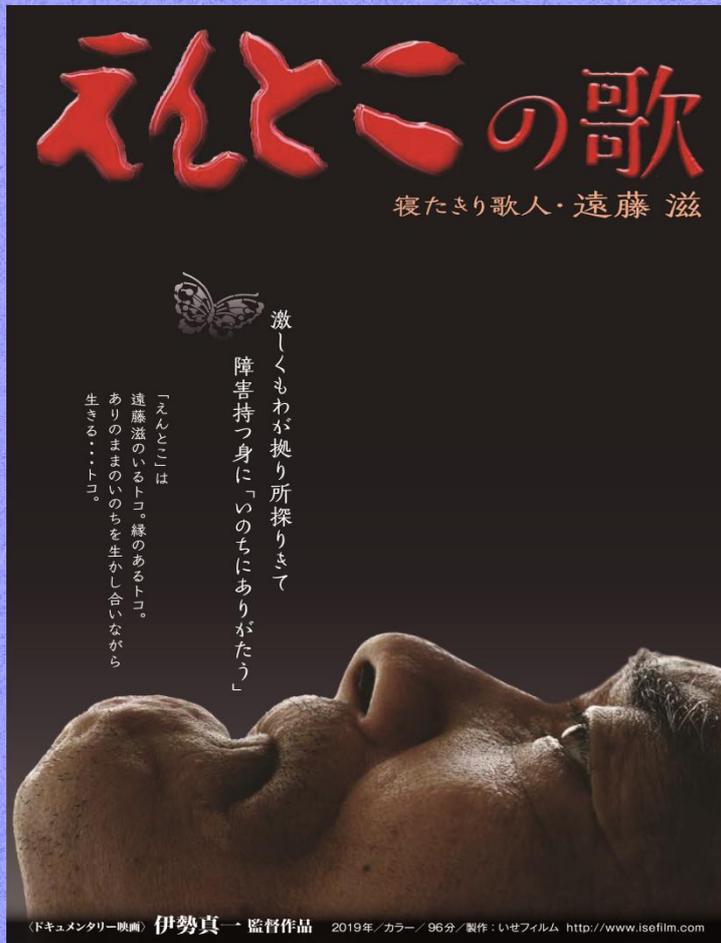


障がい者ドキュメンタリー映画上映会

# えんとこの歌—寝たきり歌人・遠藤滋



“えんとこ”とは、遠藤滋さん（1947年生・脳性マヒ）のいるトコ。縁のあるトコ。

寝たきりの生活のなかで介助の若者たちと過ごす“えんとこ”での25年間の記録。ありのままのいのちを生かし合い、寄り合って生きる交流を、自作の短歌を交えて描く。（2019年作、96分、いせフィルム、監督：伊勢真一）

“激しくもわが扱ひ所探り来て

障害もつ身に「いのちにありがとう」”

“自らを他人と比ぶることなかれ

同じいのちは他に一つなし”

©2019 年毎日映画コンクールドキュメンタリー賞グランプリ

©令和2年度文化庁映画賞文化記録映画優秀賞



## 【日時】

2024年7月28日（日）

- **第1部**（開場11:30）  
上映 12:00~13:40  
意見交換 13:40~14:10  
（「えんとこの歌」を観て）
- **第2部**（開場14:10）  
上映 14:30~16:10  
意見交換 16:10~16:40  
（「えんとこの歌」を観て）

## 【会場】 おでってホール

盛岡市中ノ橋通「プラザおでって」3階  
（盛岡バスセンターより徒歩数分）（エレベータあり）  
☎：019-604-3300（定員190席）

## 【会費】 500円

（事前申し込み不要。当日会場にて受付）

「えんとこの歌」は、1999年に作られた映画「えんとこ」の続編です。伊勢真一監督が、2016年7月26日に「津久井やまゆり園」で起きた障がい者殺傷事件を知って再び“えんとこ”を訪れ、製作されたドキュメンタリー映画です。

映画を通して主人公の生きざまに触れながら、いのちについて、障がいについて、共に生きるについて考え合う場になればと思います。

また、映画にも登場する8年前の「津久井やまゆり園事件」に思いをはせて、この事件をどうとらえ、これからにどう生かすかを考え合う機会になればと思います。

たくさんの方のご来場をお待ちいたします。

## —「えんとこの歌」遠藤滋さんのプロフィール・ことば—

### ■<sup>えんどうしげる</sup>遠藤 滋 さん（1947-2022）

- ・ 出 生：仮死状態で出生 1歳時に脳性マヒと診断
- ・ 少年時代：手も足も使えるものは全部使って何にでも積極的に挑戦  
光明養護学校（当時、全国で一校だけの肢体不自由児養護学校）卒業
- ・ 学生時代：監督の伊勢真一さんとは同級生。学園闘争のデモに参加
- ・ 教師時代：重度障がい者として東京で初めて教員に採用  
（当時の新聞記事「二重苦の青年教壇へ」「答案も足で書き 念願の母校へ」）。  
徐々に障がいが進行し退職
- ・ 「えんとこ」を組織：30代後半から寝たきりの生活となり、東京世田谷のアパートで  
介助者の力を借りて自立生活を続ける。  
※「えんとこ」は基準該当事業所として、自宅を事業所として介助者を自分で集める形
- ・ 歌詠み：「えんとこ」のベッドの上から社会や自分自身を凝視するその眼差しで、  
50代から短歌を詠み始める。歌集「いのちゆいのちへ」（2021年刊）

### ■「えんとこの歌」パンフレットから

遠藤滋:「君たちへー「否定」のルールの上で“いのちの肯定”に立つまでの私の歩みよりー」1994

君が今やりたいことを、まっすぐに人に伝えながら、出来ないことは、みんなに手伝ってもらって、堂々と生きてゆきなさい。先回りして、人がどう思うだろうか、これは、いけないことではないかとか、勝手にひとりで考えてやめてしまう必要なんかないんだよ。自分から逃げていては、何も始まらない。

そうして、自分が決めてやったことの結果を、どんなことでもすべて自分で生かしていったら、その時はきっと、いつの間にか、ますますすばらしい君になっているだろう。

それは、人に迷惑になるどころか、逆に人と人とは直接、そのいのちを生かし合っ  
て生きる。本当の人のあり方を、君に関わる全ての人に身を持って示して、それを  
実現してゆくことになるんだよ。だって、君はひとりで勝手に何かをやってゆくこと  
なんてできないだろう？

遠藤滋さんから伊勢真一さん(監督)宛てのメール(2017年6月)

今、私は日常生活を回すだけで精一杯になっています。やりたいことはいくつあ  
っても、なかなか進めません。しかし、「わたしは自分のありのままの命を肯定した  
い。そのためにはこの世にひとつでも否定された命があってはいけない。/ すべ  
ての価値はありのままの命そのものにあって欲しい。何かを為すことによって初  
めてその人が評価される基準をわたしは毀（こわ）して行きたい。」という故・安部美知  
子さんの文章を改めて引用するまでもなく、何ができなくても、そのいのちに最期  
まで感謝し、それを祝福して生きることを選ぼうと思っています。

主催：障がい者ドキュメンタリー映画をみる会：「えんとこの歌」上映実行委員会

共催：岩手県重症心身障害児（者）を守る会 学び場 Ko-Ko

やまゆり園事件を考える集い実行委員会

連絡先：上映実行委員会世話人 加藤義男 ([ykatou65@ybb.ne.jp](mailto:ykatou65@ybb.ne.jp))